

中西 健夫（なかにし・たけお）先生

株式会社ディスクガレージ 代表取締役社長
社団法人全国コンサートツアー事業者協会 副会長

1956年生まれ、京都府出身。血液型A型。
趣味はサッカー、海外旅行。

1981年、株式会社ディスクガレージに入社。
1993年、株式会社ディスクガレージ 代表取締役副社長に就任。
1997年、株式会社ディスクガレージ 代表取締役社長に就任。
現在に至る。



〈講義概要〉

株式会社ディスクガレージ代表取締役社長として、数々のコンサートの企画を手掛ける中西健夫氏が、音楽産業やエンタテインメントの進化についての講義を行った。

講義では、日本の音楽産業、特にライブの変遷について、その時代を象徴するライブ映像などを交えながら解説。これからの音楽産業を考えるにあたり、ライブのあり方が重要なポイントとなっていくことを提示した。さらに、エンタテインメント業界全体の動向もデータを用いて説明し、その時代背景や人々の需要などと市場の動きを関連させながら分析することの必要性も示した。

また、環境問題への取り組みをより身近に考えることをテーマにした音楽フェスの企画についても詳しく紹介し、「何かのきっかけになる」という音楽やライブの力についても伝えた。

加えて、日本人が世界の中で危機感を持っていないことや、メディアに流されやすいことなどを指摘。学生に、世界を意識してもっと広い視野で学び、ぶれない軸をもって行動する必要があることを強く訴えた。

〈受講生の感想〉

今の音楽業界の厳しさというのも実感できた。その中で成長を続けているのはライブというのを聞いて、自分の中ではとても驚いた。ライブの取り組みとしてアーティストとスタッフ側がメッセージを持って何かを少しでもお客様に考えてもらえるきっかけにするという心意気、現場の人達の思いが生で聞けたのはとてもよかった。

立命館大学・産業社会学部・2 回生

CD やアルバムが売れなくなった時代だからこそ、ライブや野外フェスなどが多いのだと納得しました。ライブをする上で客層に合わせて、曜日や時間帯を設定するのはとても重要なことだと思いました。アーティストによって会場を選んで、ライブをする側も楽しめるようにすることが、コンサート作りで大切だと知りました。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

今日お話を聞くまでは音楽市場は衰退しつつあるものだと思っていましたが、改めて考えてみると今この期間が音楽業界のターニングポイントのようなものであって、人々の音楽に対する需要や願望が変わりつつあるのかなと思いました。

立命館大学・産業社会学部・4 回生

ライブイベントの進化は数々の苦勞があって今があると思うと、私たちの世代は今後もっと新しいライブのスタイルや市場を切り開いていければいいなと思いました。少子高齢化によってマーケット戦略を考えなければいけないというお話が非常に勉強になりました。ライブ・コンサートのスタイルがどんどん変わっていている今、新しいメディアの登場や社会状況、経済など広い視野で見えていく必要があると思いました。立命館大学・映像学部・2 回生

エンタテインメントを発展させていくには、その時代にあったスタイルを確立し、その時代の問題を見直すことが必要なのだなと思いました10年前とは私たちのライフスタイルは大きく変化しており、CDも売れないといわれている今、全く新しいエンタテインメント・ビジネスを生み出すことが求められているなと感じました。

立命館大学・産業社会学部・3 回生

話の中にメッセージ性を感じたし、生きていく上での勉強になることが多かった。情熱の大切さや、日本人のミーハーさを痛感した。日本人である自分に何が出来るのか、何をすべきなのか、考える契機となる講義でした。立命館大学・法学部・3 回生

